

平成 19 年 8 月期 第 1 四半期 決算発表にあたって

平成 19 年 1 月 15 日  
株式会社インデックス・ホールディングス  
代表取締役社長 椿 進

昨年 12 月 1 日に、株式会社インデックス・ホールディングス社長に就任しました、椿でございます。就任後、初めての四半期決算を、本日発表いたしました。社長就任以来、喫緊の課題として、海外事業の建て直し、グループ再編、社内体制の改革に取り組んで参りましたが、今回の第 1 四半期決算は、その取り組みを率直に反映した内容となっています。

#### 【計画通りの着地】

ソリューションやエンタテイメントなど主力事業は概ね計画通り順調に推移しました。一方、対前年同期と比較すると旧来の携帯向けオリジナルサイト事業の収益悪化、中国子会社における営業赤字、グループ再編コストの発生等により、営業利益は減益となっていますが、グループ再編などに伴う営業外収益の計上によって、経常利益、当期利益は、ほぼ計画通りの数値を確保できました。

#### 【海外事業の立ち直り】

特に海外事業においては、前期におきまして、約 3 億円の営業赤字を計上しましたが、欧州のマネジメント改革、米国子会社への他資本導入という打ち手により、今第 1 四半期では約 1 億 5 千万円の営業黒字とすることができました。もちろん、まだ不安定な状況ではありますが、海外事業業績浮上の重要な第一歩の期となったことは間違いありません。

#### 【積極的なグループ再編に着手】

一方、国内を含めたグループ再編をより速いスピードで進めております。これにより、第 1 四半期において発生した再編コストは予定を約 3 億円程度上回り、営業利益減益の要因となりましたが、この施策は必ずや近い将来に大きな収益となって返ってくると確信しています。

#### 【業績管理を徹底】

こういった機動的な経営判断が可能だったのは、グループの予算実績管理が、よりの確になったためです。現在では、各子会社の業績とその後の見通しは、ほぼ正確に早期に把握することができ、それに対する的確な判断が下せるよう

になりました。こういった基本的な社内体制の整備も、着々と進んでいます。

**【今後も再編を加速、成長への転換へ】**

海外事業の収益底打ち、国内事業の売上堅調といった二つの状況を背景に、私は、引き続き、国内を含めたグループの再編を思い切って進めて参りたいと思っています。できれば中間期から今期中にこれら再編を実施し、下期および来期以降、強い収益体質を持ったグローバルな成長企業グループという姿を、皆さんの前にお見せできるよう、全社一丸となって邁進して参ります。